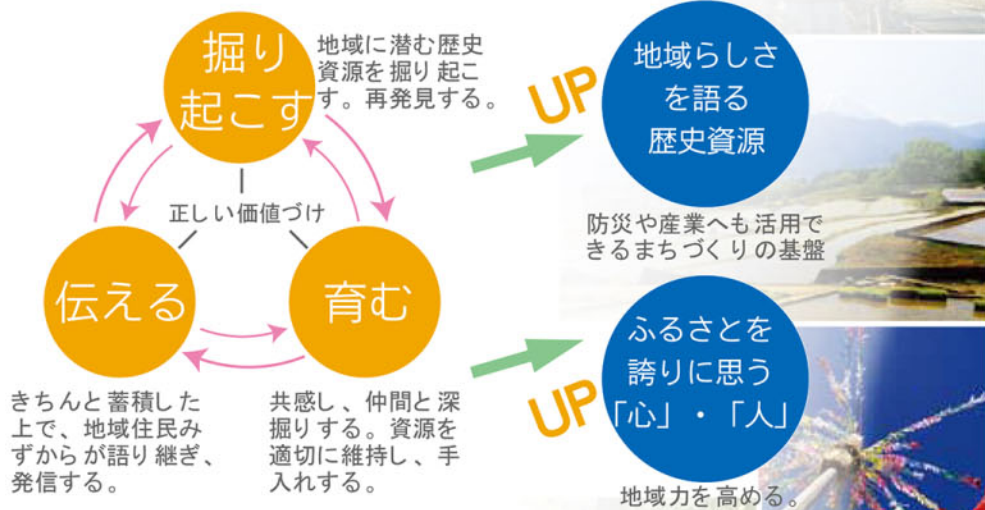


○何気ないものの中に潜む「地域らしさ」を語る歴史資源

有名な文化財ばかりでなく、普段見慣れているモノや、忘れられてしまったモノ・コトにもその地域ならではの「物語」を語れるものがあります。地域の魅力となり得るものなのです。しかし、そのことに気づかずに失われることも多いのです。

○「掘り起こす」「育む」「伝える」ステップ



地域のみなさんとともに、地域を歩いて資源を再発見するフィールドワークや、地域の歩みを見つめなおすワークショップをおこないます。その中で、市は広い視野で正しい価値付けを行なう役割を担います。



3月18日に行われたフィールドワークを兼ねたツアーでは、講師から地域ならではのを知ることができる視点を教わり、参加者からは「うちにも同じものがあるから大切にしまきゃ」、「〇〇さんが詳しいから聞いてみる」、「昔遊んでたところがこんなに面白い話の舞台になるなんて思いもしなかった」という声が聞かれました。この思いをつなげていきたいですね。

3月18日に行われたフィールドワークを兼ねたツアーでは、講師から地域ならではのを知ることができる視点を教わり、参加者からは「うちにも同じものがあるから大切にしまきゃ」、「〇〇さんが詳しいから聞いてみる」、「昔遊んでたところがこんなに面白い話の舞台になるなんて思いもしなかった」という声が聞かれました。この思いをつなげていきたいですね。

○まずは何があるのか。「ふつう」のものが実は大切。

まずはどんな歴史資源があるのか年毎に地区を割り当て、集中して調べ、地区のみなさんと共有します。

ワークショップやフィールドワークとともに、文化財課では、昨今急激に失われている下記の4つの分野に絞って悉皆調査（しっかいちょうさ）※を実施します。建物の建替えに伴い、古い道具類や書類、風習までもが失われつつあります。「口承」も「民俗」の一部ですが、「伝承」や「記憶」と言い換えても良いものです。みなさんの思い出話なども記録していく予定です。

「建造物」・「古文書」・「民俗」・「口承」

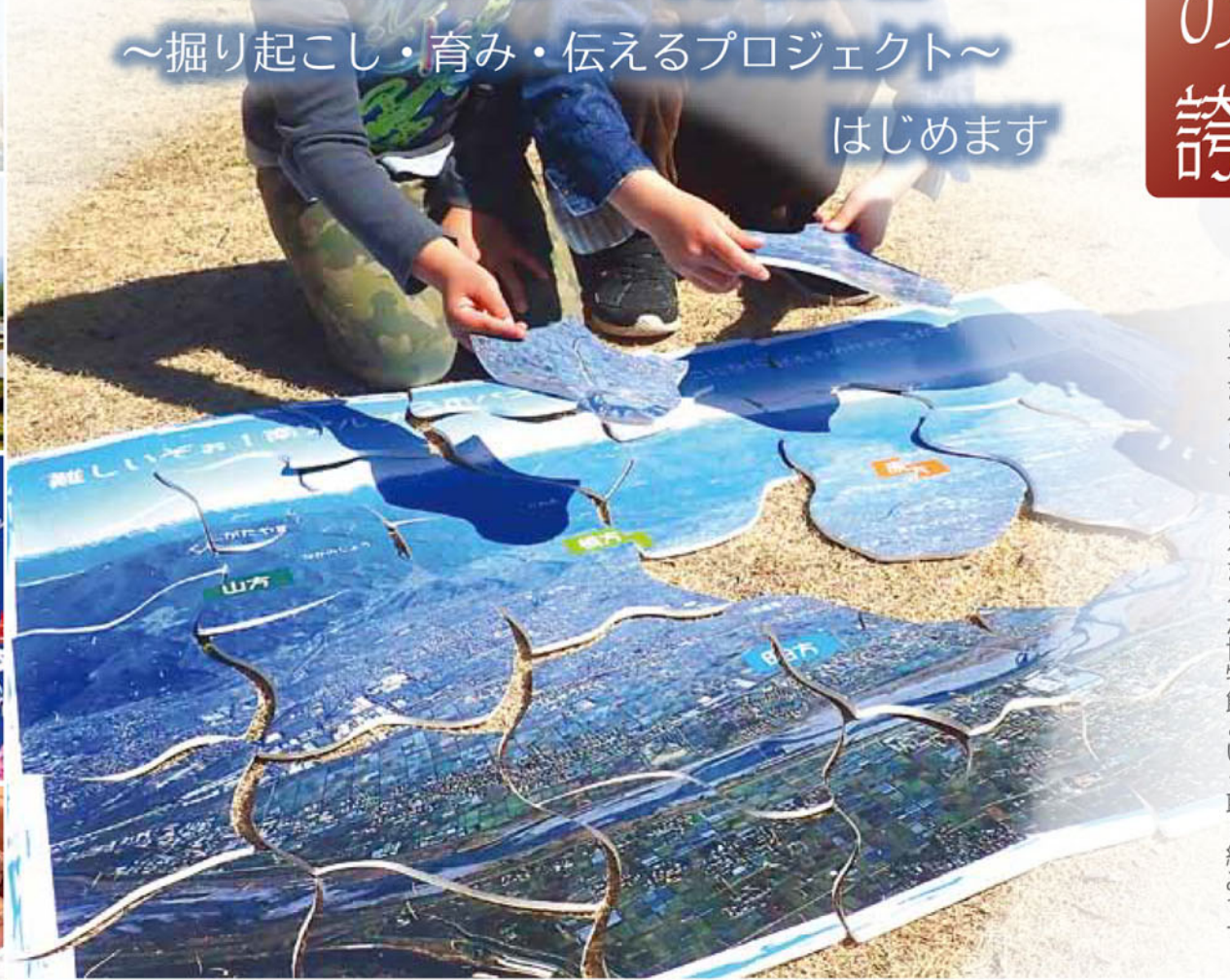
平成29年度は芦安地区と八田地区で実施しますので、調査の際にはご協力をお願いいたします。別途ご案内いたします。

※ 悉皆とは「ことごとくすべて」という意味で、歴史資源の有無と状態を全て把握するための調査です。

まるまる ふるさと〇〇博物館

～掘り起こし・育み・伝えるプロジェクト～

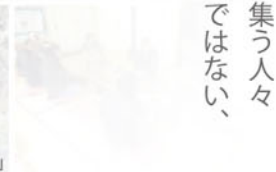
はじめます



ふるさと
の117
誇り

地域を知り、共感しあい、ふるさとを誇る心を醸成する。

この事業は、市内に存在する歴史資源、また歴史資源に集う人々をつないで市全体を博物館と見立てたもので、ハコモノではない、まちまるごと、まるまるが博物館という取り組みです。



地域には、忘れられていたり、たいしたことないだろうとその価値に気づかれずにきた沢山の歴史資源が潜んでいます。この資源をみなさんとともに再発見し、正しい価値付けを行い、みなさんが自ら発信することで、ふるさとに誇りをもち、より魅力ある地域を築こうというものです。つまり、「掘り起こし・育み・伝える」プロジェクトなのです。

「ふるさと〇〇博物館」とは出来上がった「モノ」だけを言うのではなく、その過程そのものを指す事業であり、まさに本市が推進するふるさと教育そのものといえます。

「〇〇博物館」って？

読み方は「まるまるはくぶつかん」。市まるごとが博物館という意味に加えて、あえて「〇〇」としたのは、あなたなりの言葉を入れ、あなたの思いをこめた博物館に育てていただきたいという気持ちがかめられています。

○市まるごとが博物館

通常「フィールドミュージアム」と呼ばれ、市内の各地域を展示室に見立て、史跡や文化財を展示物に見立てるといった取り組みで、全国的にはコースやマップ、ガイド組織を整備して完成というものが多い中、本市では、むしろそれを整備するまでの過程を重要視します。

写真・文 文化財課